

人と人をつなぐ募金

青森市立横内小学校6年 秋元 隆宏

「学校の授業で赤い羽根共同募金に関する人たちをゲストティーチャーとして授業に招き、もっと赤い羽根共同募金についてぼくたちが学べばいいのに。」

ぼくは、今後の赤い羽根共同募金について、こう思います。

ぼくが最初に経験した赤い羽根共同募金は、幼稚園の時でした。ぼくは、人見知りで

「募金をお願いします。」

と、なかなか言えませんでした。そうです。この時は、募金をする側ではなくて、してもらう側を体験したのです。周りの人たちはどんどん

「募金をお願いします。」

「ありがとうございます。」

と言っていました。ぼくは、

「みんなが協力していてすごいな。」

と思いました。ぼくも一生けんめい

「お願いします。」

と言ったことを覚えています。この時はお金が集まるといううれしさよりも、募金というのは、人と人のつながりが大切なんだなということを思いました。

赤い羽根とは、寄付をしたことを表す「共同募金」のシンボルとして幅広く使われています。赤い羽根には、「助け合い」「思いやり」「幸せ」という意味がこめられています。ぼくが幼稚園の時に感じた「人と人のつながりの大切さ」というものが、この赤い羽根にしっかりと入っているということを知り、ぼくが感じたことはまちがいでなかったということがとてもうれしかったです。そして、この赤い羽根共同募金は、お年寄りや子どもたち、障害者などを支援しています。ぼくたちが知らないお年寄りや、子どもたち、障害者たちと心をつなげることができます。この募金活動は70年以上続いています。このようにこつこつと活動することは人の役にたつということがとてもすごいことだとわかりました。そのことを知った後、募金週間があると、

「募金をするぞ。」

という気持ちになります。だれかのためになっているということを知ると、ますますうれしくなります。

ぼくは、この募金活動をこれからも続けていきたいと思います。最初に書いたように、学校の授業として募金について学ぶと、もっとたくさんの方が募金活動の意味をしり、もしかしたらその仕事にたずさわりたいと思う人も出てくるかもしれません。ぼくは、人と人をつなぐことができる募金活動をこれからも受けついでいって、募金で集まったお金をよりよいくらしのために使ってもらいたいと心から願っています。